

令和2年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立青垣中学校
-----	-----------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
<input type="checkbox"/> 自立して未来に挑戦する態度と確かな学力の育成 <input type="checkbox"/> 心身ともに健康で仲間と協働し最後までやり切る生徒の育成 <input type="checkbox"/> 地域の人との関わりを通じた自尊感情の育成	● 自立に向けた確かな学力の育成 ● 安心安全な居場所づくりに向けた心の通い合う生活指導 ● 地域と共にある学校づくり

○自己評価

○学校関係者評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	地域と共にある学校づくり	地域の教育力の活用	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、例年と同じような教育活動は制限されたが家庭科や技術に対する学習支援サポーターの活用は昨年と同様に実施し、大きな教育効果を上げた。ただ、「たんば未来学」などキャリア教育の一部はベースとなる「トライやる・ウィーク」を中止した関係から実施できなかったものもあった。 その反面、「トライやる」の代替事業として、地域（FOREST DOOR しぐら）と連携し、地域で働くことの意義などの講話や体験活動が実施できた。 学校も不安定な要素が多い中「学校は保護者からの連絡や相談に適切に対応しているか」という保護者アンケートの結果は肯定的な回答が87%と昨年度より10%向上した。また、行事に関しても内容を変更し実施したがアンケートの評価では、ほぼ昨年度と同程度の結果を示し、活動への理解は得られたと考える。
		小、高との連携推進	B	<ul style="list-style-type: none"> 小学校との連携事業はコロナ禍で中止の判断を余儀なくされた。ただ、そんな中、例年行っている小中高連携の地域貢献活動としてのクリーン作戦は「トライやる」の代替事業として感染予防に留意しながら時期を変え実施できた。 ICTの活用において小学校と合同の研修会を実施し、コロナ禍に対応した利用方法や授業での活用など情報交換を行った。また、情報教育やICTのスキルに関して小中一貫のカリキュラムの作成に取り組んだ。
	生徒指導	地域に誇れる青中生の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> 「地域に誇れる青中生」をスローガンに生徒会の「FACE UP!」できることを精一杯やろうとの呼びかけと連携させ、学校生活の向上に取り組んだ。その結果、挨拶などは地域からも評価いただけるような場面も増えてきた。 例年行っている「もみじマラソン」での地域貢献活動はできなかったが、丹波布を活用した募金活動に切り替えて実施し、活動を継続させた。 コロナの感染防止策として本来1クラスである2年生、3年生をハーフサイズにし、生活も含め、できる限り少人数で対応した。職員の負担は授業数など増大したが、一人ひとりと関わる機会が増え、生活は非常に落ち着いてきたと感じる。アンケートでも「クラスは居心地が良い」と答えた生徒は18%増加した。
主体性の育成		B	<ul style="list-style-type: none"> 主体性育成の土台として、地域での交流や体験活動を通じての自尊感情の育成に取り組んできた。本年度はコロナの影響で例年のような活動はできなかったが、該当項目のアンケートで「自分にはよいところがある。」と肯定的に答えた生徒は昨年度と同程度で、積極的な肯定者は46%とここ数年では一番高い割合を示した。これは、今までの取り組みの成果だと考える。 自分が「正しく評価してもらえるか。」というアンケートで肯定した者は95%にも達し、そのうち積極的に肯定した生徒は61%に上った、職員の評価が自尊感情の育成にもつながったと思う。意識を共有し、取り組んだ成果だと考える。 いじめ防止に向け、傍観者ではなく自分たちで防ぎ得る態度の育成を目指して取り組んだ結果、いじめを見た時「注意する」と回答した生徒が55%となり、昨年からの比較では2倍近く増加した。 	
教育課程	学習指導	確かな学力の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教科で少人数指導を展開したことで落ち着いて授業に臨んでいる生徒が増加したと感じる。また、職員も負担が増加しているながらも授業改善に取り組み、アンケートで「先生は授業を分かりやすく工夫しているか」の項目では肯定者は96%になった。さらに積極的に肯定した生徒は半数近くに上り、学期ごとに教員が自分の授業の目標を設定し、取り組んできた成果だと考える。これは、昨年からの学力向上に特化した委員会を立ち上げ、学力向上具現化プランをもとに組織的に取り組んできた成果だと感じる。 その反面、授業スタイルの課題も見られた。子どもの立場に立った目標・めあての設定や振り返りなど基本の授業スタイルを徹底していきたい。 RST(リーディングスプリント)を実施し、その結果を委員会で分析し、全体での共有を図った。来年度はこの結果をもとに学力向上の対策を定め、取り組んでいく。
		家庭学習の定着	C	<ul style="list-style-type: none"> 臨時休業中に自主的に家庭学習に取り組んでいた生徒の割合や、生活アンケートの家庭学習時間から見て「自ら学ぶ」生徒の育成には課題がみられた。ただ、学習時間の極端に少ない生徒の割合は以前より減少し、平均値に近づいた。 スマホやPCでのネットの利用時間が大きく上昇している。臨時休業もあり、触れる時間が増加したと考えられる。タブレットPCの配布等もあり、こういったICTを活用しての学習活動に取り組ませる工夫が必要である。 基礎学力の向上を目指した「礎チャレンジ」の取り組みは実施以降、最高の合格率を記録するなどしっかりと定着した感がある。今後は現状を活かしながら、更なる家庭学習の充実に向け、次のステップに移行する手立てに移りたい。

自己評価の各観点に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> 学習支援サポーターの取り組みは今後も継続してほしい。また、支援者が固定化されることなく多くの方々が開かれるように願いたい。 なんでもコロナを言い訳にできるが、「トライやる」の代替事業が地域との連携により実施できたことは評価できる。 活動の内容をもっと地域に発信し、PRすることで協力者の確保にもつながるのではないだろうか。 コロナでできなかったことも今後復活させて地域とのつながりを密にしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の減少による先生の減少は仕方ないことであるが、タブレットの活用で地域の学生に教えてもらうなど可能性を探ってほしい。 クリーン作戦は地域貢献だけでなく環境学習や連携することの大切さを知る機会にもつながる取り組みなので中止にならず実施できてよかった。
<ul style="list-style-type: none"> あいさつが地域からも評価されるようになってきたことはとてもよいことである。今後さらなるレベルアップを図ってほしい。 クラスを二つに分けることで落ち着きと仲間づくりが進んだのではないかと思う。先生は大変だと思うが、これからは少人数でゆとりのある授業を目指してほしい。 コロナ禍でも子どもたちの決めたスローガンを支援し、できることを精一杯やり創意工夫したことは今後の生活にもつながっていくと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 「自分には良いところがある」と肯定的に思えることで友達のことも受け止めたり、注意をしたりなど他人事だと見過ごさない気持ちにつながっていると思う。心の教育が今後につながっていくのでこの取り組みを続けてほしい。 先生方が一人一人の生徒をしっかりと見てくれているのが成果として出ていると感じる。 自分が正しく評価されていると思う人の割合が高いのでこのまま維持して「いじめ」などのない学校になってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 教室を見させてもらったときにも子どもたちが楽しそうに授業している様子が見えたので良かった。今後も続けてほしい。 学力が伸び悩む原因の解明にリーディングスプリントを活用し、対策を講じてもらいたい。 少人数で落ち着いた環境になっていることは学力の向上につながると思う。いろんなことにもっとチャレンジし、プランを具現化することでだれもが分かりやすくなることを願う。 とにかく読書量を増やしてほしい。名だたる経営者は圧倒的に読書量が多い。
<ul style="list-style-type: none"> 中学生の家庭学習には課題があるように感じる。スマホやPCとの向き合い方を親も子も真剣に考えないといけない。そんな機会を作ってほしい。 ICTの活用が家庭学習の充実につながるような取り組みをしてほしい。 礎チャレンジでクラスで競い合うことは楽しく学んでいると思う。今後も継続してレベルアップにつなげてほしい。 自主性もいいが中学生にはまだ課題が必要では。

※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育
 ※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

自己評価の実施方法についての評価

- アンケート結果の数値などから判断し、適正に評価されていると感じる。
- 本年度はコロナの関係で紙面での評価となったため、もう少し情報があればよかったかなと思う。
- コロナ禍の中、色々工夫することを学ぶという点で今回の評価もいいと思う。ただ、評価のための工夫が今後必要だと感じる。

学校関係者評価のまとめ

- CSとして地域と共にある学校づくりに取り組んでいることを広く地域に啓発し、新たな協力者の確保につなげたい思いが強くある。そこで本年度開催できなかった熟議の開催や情報の発信の仕方を検討願いたい。
- 小中連携に関して様々な行事が取り組まれていたが本年度、コロナの影響を受けたことは残念であるが仕方がない。できることから継続し一貫性のある教育を行ってほしい。
- 家庭との連携が学習面や情報モラルに関しても不可欠である。今まで以上に連携してほしい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

【学校経営】運営協議会との連携をさらに深め、学校教育に対する協力者の拡大に努めるとともに、小中一貫教育の推進を加速させ9年間を見据えてカリキュラムの編成を拡大させる。

【生活指導】少人数での対応などで子どもたちの生活に落ち着きが出てきた。今後も3年生については少人数での対応を図っていくとともに、自治活動との連携を強化し、「自ら」の部分に焦点を当てた指導を推進していく。

【学習指導】礎チャレンジの取り組みを継続するとともに、二極化が進む中、ICTの活用による個別に最適化した学習の実現と家庭学習の充実を目指した研修を進めていく。

令和3年3月3日 学校名 丹波市立青垣中学校
 校長名 荻野圭裕

